熊日1970.11.28

昭和45年(1970年)11月28日　土曜日

きょうチッソ定時総会

乗り込む全国の"一株株主"

恨みを直接社長に

会社側　対策に神経ピリピリ

公害被害者と支援団体が一株株主となって、公害企業の株主総会に乗り込むという新しい総会戦術で注目されるチッソ株式会社（本社・東京、江頭豊社長）の第四十一回定時株主総会はきょう二十八日午前十一時から大阪市西区新町北通二丁目の大阪厚生年金会館中ホールで開かれるが、二十七日午後には水俣からの患者家族十九人が巡礼姿で大阪入りしたのをはじめ、熊本、福岡、大阪、東京など全国各地の水俣病を告発する会会員ら約五百人が市中デモや総決起集会で気勢をあげた。

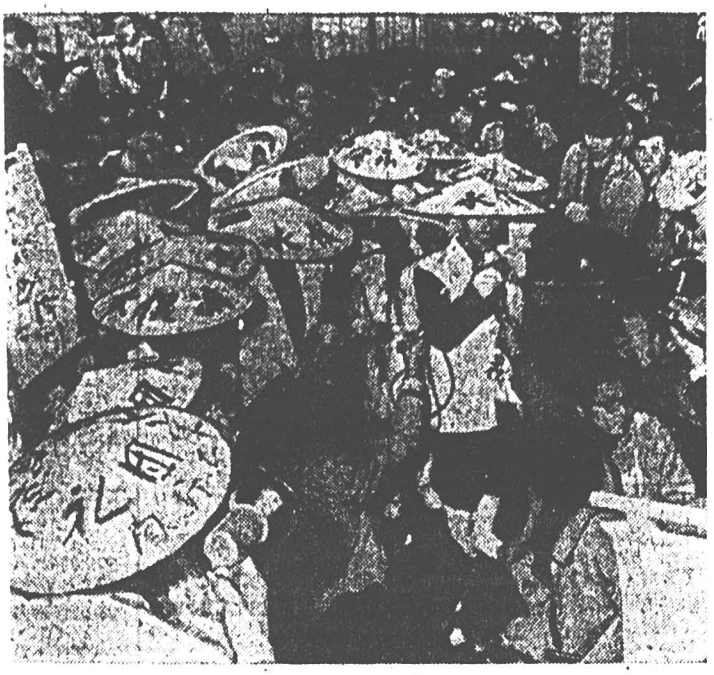
右翼、総会屋も動く

二十八日の総会は午前九時半受け付け開始、十一時開会の予定で、会社が予定している議案は四月から九月までの営業報告、貸借対照表、損益計算書の承認と利益処分の一号議案だけ。従来なら十五分程度で終わるところだが、今回はそう簡単には終わりそうにもない。

告発する会ではこれまで五千五百四十五人の一株株主を登録済みで、これを背景に当日は約一千人を入場させ、定員千百人の会場のほとんどを"告発者"でうずめる計画。そして一株運動の提唱者後藤孝典弁護士や東大工学部助手の宇井純氏、患者家族代表渡辺栄蔵さんらが次々に立って約四時間かけて会社の企業責任を追及、口火を切って患者の十七年間のうらみを直接江頭社長にぶつけたいとしている。

これに対し会社側では、大株主や管理職以上の社員約百人を入場させて対抗するが、会場入り口を一カ所にしぼり、株主以外はいっさい入場させないほか、携帯品も入り口で預かる方針で、対抗に神経をとがらせている。会社は議案だけ早く可決、あとは懇談会に切り替える戦術に出るものとみられ、この場合、議事の打ち切りや議案採決をめぐって一波乱ありそうだ。

一方、右翼や総会屋の動きも活発で、奈良に本拠を持つ大日本菊水会（三井春三代表）が三千七百株を取得、二十二人が株主となっているといわれ、当日は早朝から会場付近に宣伝カー五台を繰り出し、ビラをまくほか、会場にも入って会社擁護に回るという。このため会社では大阪府警に対し警備を依頼、同府警では当日機動隊二個中隊（百六十人）を近くの大阪西署に待機させるほか、警備や交通巡査百三十人を会場周辺に出



大阪駅頭で巡礼姿であいさつする患者代表ら